



第10回記念 朝日レディーステニス全国決勝大会

昭和63年11月8日～11日 朝日生命久我山テニスコート



朝日レディーステニス 全国大会

一回戦の相手
山口県チーム

第十回記念朝日レディーステニス全国決勝大会(日本テニス協会、朝日新聞社主催、朝日生命協賛)の開会式が行われた東京・新宿の東京ヒルトンホテルの会場は、白のユニホームに交じってピンクや赤、紫などカラフルな衣装を着た選手たちが、興奮の空気に包まれた。九日から始まる朝日生命久我山テニスコートでの対戦を前に、選手たちの表情は晴れやか。開会式のハイライトの組み合わせ抽選では、対戦相手が決まるたびに歓声や拍手が起き、全国一万人を超す参加者の頂点をめざして闘志を見せつけていた。

秋田



東京・新宿の東京ヒルトンホテルで

山口県チームと熱戦を繰り広げる本県チーム
＝東京・世田谷の朝日生命久我山コートで



朝日レディーステニス 全国大会

第十回記念朝日レディーステニス全国決勝大会(日本テニス協会、朝日新聞社主催、朝日生命協賛)の試合が九日、東京・世田谷の朝日生命久我山テニスコートで始まり、1、2回戦が行われた。

県勢は1回戦、山口県勢と対戦。どれも実力のつり合った好戦。試合だったが、わずかに及ばず、2回戦出場はならなかった。

第一試合の伊東悦子・松井礼子組は、相手の長身をいかに力強いサーブやボレーに押され、攻撃のチャンスはなかなかつかめず敗退。続く第一試合の田村由美子・増田芳子組は、フルセットに持ち込む熱戦を演じ、長い打ち合いが続いたが、わずかの差で惜敗。増田さんは「高いボールを警戒しすぎて、あまり攻められなかった」と残念そう。

第三試合の芳賀澄江・堀江千景組は二人の息もピッタリで最初からペースをつかみ、快勝。堀江さんは「一セットをとった時も、決して気を緩めないように」と入道し合ったといい、また、芳賀さんも「思うところにボールが打って満足です」と話した。

杉山恵美子監督は「負けたけれど、どれもいい試合だった。各々が、いかに早くいつものペースを出せるかが課題だった」と話した。

▽1回戦

兼篠	磯境	森新	山
安原 0 (4 1 6 2)	部田 2 (6 6 3 1)	川地 2 (6 6 4 0)	口 2 1 秋
堀芳	増田	松伊	田
江賀	田村	井東	

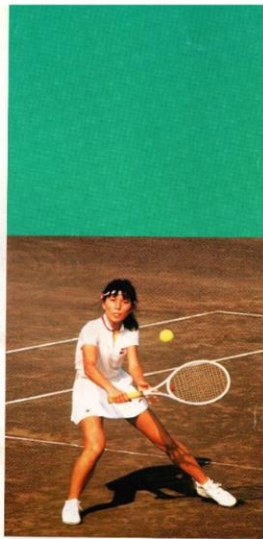
10th
第10回記念

ASAHI LADIES TENNIS

全国決勝大会

★とき/1988 11.8 Tuesday → 11 Friday

★ところ/朝日生命久我山テニスコート



ASAHI LADIES TENNIS

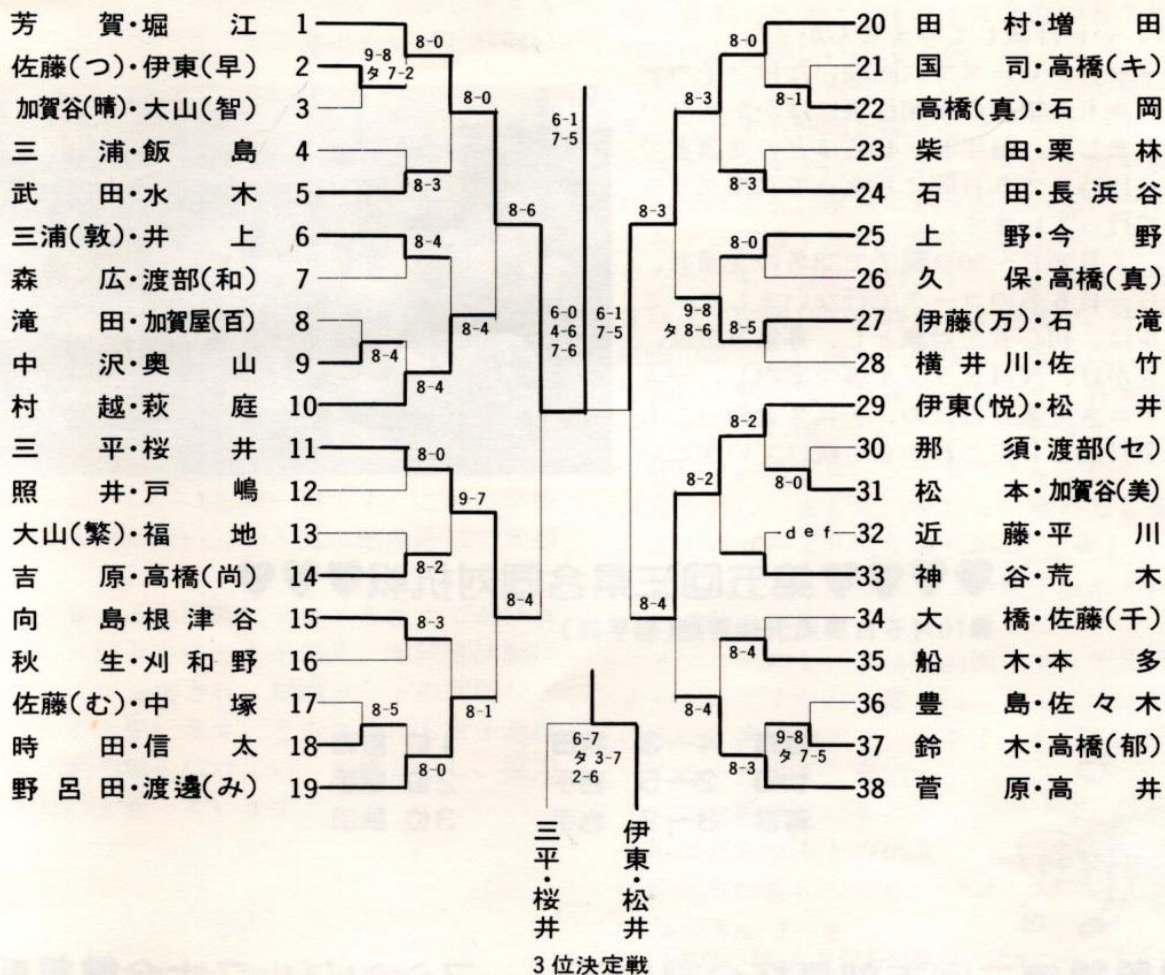
主催/財)日本テニス協会 協賛/朝日新聞社 後援/財)日本体育協会 日刊スポーツ新聞社 テレビ朝日

主管/日本女子テニス連盟 協賛/朝日生命保険相互会社



♥♥♥♥第九回朝日レディーステニス秋田県予選大会♥♥♥♥♥

■9月11日・12日■向浜テニスコート■参加人数 76名



全国大会に出場して

芳賀 澄江

今回の顔ぶれならひょっとして…と期待しましたが、惜しくもチームは敗退。しかし私にとっては初の一勝で悔いのない試合でした。

全国大会と言っても今では、地方のレベルもアップし全然敵わない相手はいないけれども一勝するのはむずかしく全国の壁は厚く勝つためにはミスが少ない事、又精神面の持ち方も大きく、スポーツは自分との戦いであると思いました。試合形式について、私達は主に雁行陣でしたが、全体を見て平行陣が出来ないと上に勝ち進んでいくのはむずかしいと感じました。

翌日は、優勝した千葉の試合を観戦しましたが、選手の気迫や闘志、力強さは秋田にはないものがあり見習うべきところが多く“すばらしい”の一言でした。

今後は、この経験や反省点を課題とし増々頑張っていきたいと思います。そしてとても楽しい3日間でした。

朝日レディース決勝大会に出場しての感想

増田 芳子

思ったより年令の高い人が多くほっとしました。ファッションもはなやかで色とりどり値段いろいろ、顔の色は意外にも白い方で、練習量もいろいろ、いろんな意味での女の戦いを感じました。内容的には、はりきって参加したものの、結果は見事な惨敗でした。持ち味も出せず、全力も出しきれなかったの一言です。山口県チームは、実力は同レベル位でしたが、ここ一番の集中力、勝利へのひたむきさなど学ぶべきものがたくさんありました。団体戦のプレッシャーもガラスのような心の持ち主？の私には責任が重すぎました。ベンチで応援の監督さん、芳賀さん達の祈る様な目が今でも思い出されます。実力はなくても、火事場の馬鹿力的勝利を望んでおられた大勢の皆さん、期待に添えずすみませんでした。